

第6学年「SDGsについて発信しよう」(全8時間)

1 単元について

(1) 単元の目標

- ① 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- ② 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ア
- ③ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ウ
- ④ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っている。((2)イ)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く、伝えたいことを明確にしたり書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって情報を発信する文章を書くとしている。

2 本単元における「深い学び」の実現に向けて

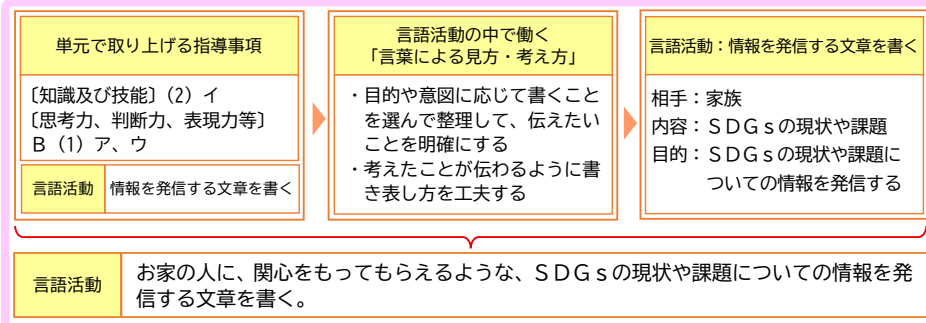
(1) 「深い学び」を実現している姿とは

集めた情報を整理して伝えたいことを明確にしたり、考えたことが伝わるように書き表し方を工夫したりするなどの「言葉による見方・考え方」を働かせながら、読み手に関心をもってもらえるような、情報を発信する文章を作成している姿。

(2) 授業の実際

ポイント① 「言葉による見方・考え方」が意識的に働く言語活動の設定

本単元では「情報を発信する文章を書く」という言語活動を設定します。学習を展開する中で、「お家の人に、関心をもってもらえるような、SDGsの現状や課題についての情報を発信する文章を書く」という目的や相手を明確に示します。それにより、児童は、伝えたいことを明確にするためにどのように情報を整理するのか、さらに、読み手を意識した書き表し方をどう工夫するかという見通しをもつことができます。



ポイント② 単元で働かせる「言葉による見方・考え方」の自覚化

指導と評価の計画 (全8時間)

時	主な学習活動	評価規準・【評価方法】
1	○学習課題を知り、単元全体の見通しをもって、学習計画を立てる。	
2	○SDGsの17の目標から伝えたいテーマを決める。	[知識・技能①]
3	○情報を集める。	[1人1台端末の記録・観察]
4	○集めた情報を整理し、発信する情報として伝えたいことを明確にする。	[思考・判断・表現①] [1人1台端末の記録・観察]
5	○自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する。 ○構成メモを書く。	[思考・判断・表現②] [1人1台端末の記録・観察]
6	○発信する文章の下書きを書く。	[主体的に学習に取り組む態度①]
7	○書いた文章を互いに読み合い、気付きを基に推敲する。	[振り返りの記録]
8	○単元全体の学習の振り返りを行う。	

*ポイント②の具体を、第1時と第5時を取り上げて、説明します。

《単元を通して働かせる「言葉による見方・考え方」の見通しをもつ場面 (第1時)》

言語活動の目的や相手を見通しと共有することで、児童は、どのような「言葉による見方・考え方」を働かせればよいかという見通しをもって学習に取り組むことができます。

※**ハイライト**の部分は、児童が働かせている「言葉による見方・考え方」を示しています。

学習課題

この単元では、**目的や意図**に応じて、情報を整理し伝えたいことをはっきりさせ、書き表し方を工夫しながら書く力を伸ばす学習をします。

課題は、**お家の人**に関心をもってもらうような、**SDGsの現状や課題**についての情報を発信する文章を書くことです。

単元の学習課題は、次のとおりです。情報を発信する文章では、伝えたい情報を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように構成や表現を工夫することが大切です。お家の人に関心をもってもらうためにはどのようなことに気を付けるとよいですか。

お家の人が知らない情報や、生活に関わりが深い情報を集めるとよいと思います。

お家の人が知りたいことを中心に、関係のある情報をまとめたり分けたりすると、内容が分かりやすくなるので、関心をもってもらえると思います。

よい考えですね。読み手が知りたい情報を関係付けて整理すると、伝えたいことが分かりやすくなり、読んでみようという気持ちにつながりますね。では、文章に関心をもって最後まで読み進めてもらうためには、ほかにどのような工夫があるでしょうか。

見出しを付けて、どこに何が書いてあるか分かるようにするとよいと思います。

調べたことだけでなく、自分の考えや感想も書くとよいと思います。

そうですね。情報を整理したり、見出しを付けたり、自分の考えなどを加えたりすることで関心をもって読み進めてもらえますね。では、SDGsの現状や課題を伝えただけで、どのような工夫をすれば、より関心をもって読み進めてもらえると思いますか。

現状や課題を伝えるだけでなく、課題の解決に向けて家庭でできるSDGsの取組などを紹介したらよいと思います。

よい考えだと思います。では、情報の整理の仕方や、書き表し方を工夫することで、お家の人に関心をもってもらえるような文章を作成していきましょう。

《自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する場面 (第5時)》

情報を発信する文章のモデル(資料1)を提示し、文章の構成や書き表し方を確認していくことで、児童が学習活動を具体的に見通すことができるようになります。児童は、どこを詳しく書くか、どこを簡単に書くか、事実と自分の考えをどう分けて書くかを中心に考える中で、「言葉による見方・考え方」を働かせます。

〈活動の見通しをもつ場面〉 ※ハイライトの部分は、児童が働かせている「言葉による見方・考え方」を示しています。

今日は、自分の考えが伝わるように、目的や意図に応じて書き表し方を工夫する学習をします。では、どのように書き表し方を工夫したいですか。

ぼくは、集めた情報を基にお家の人に「食品ロス」について関心をもってもらえるように書き表し方を工夫したいです。

では、情報を発信する文章のモデルを基に、「どうすれば読む人が関心をもつか」を考えてみましょう。

「1 現状」で具体的な数字を使って、事実をはっきり示しているから、読む人が「えっ?こんなに多いの?」と関心をもちそうだと思います。

事実だけではなく、「なぜ海に流れてしまうのか」についての理由も書いてあります。

本当だ。「1 現状」に事実をはっきりと示したあとに理由を書いているから「どうして?」と思ったときに、すぐ答えを読むことができるので、最後まで読み進めてくれると思います。

「2 家庭でできる取り組み」に、すぐにできそうな例が書いてあります。そうすることで読む人が「自分もできる」と思うようにしていると思います。

「3 まとめ」に「海の生き物を守るができる」と書いてあるので、「やってみよう」と思ってもらえるまとめになっています。

それに、事実や理由だけでなく、自分の考えが書いてあるので、読む人にも「伝えたい気持ち」が分かりやすくなると思いました。

モデル文を読んで、どこが特に詳しく書かれていて、どこが短くまとめられているかに気付いた人はいますか。

「1 現状」のところは詳しく書いてあったけれど、「2 家庭でできる取り組み」は短くまとめられているところがありました。

もしかして、読む人に一番伝えたいところを、少し詳しく書いてあるのかな。

みなさんの気付き(資料2)は、書き表し方を工夫するヒントになりそうですね。では今から、集めた情報を見直しながら、お家の人に関心をもって読み進めてもらえるように、どこを詳しく書くか、どこを簡単に書くか、事実と自分の考えをどう分けて書くかを中心に考えてみましょう。

プラスチックごみと海の生き物へのえいきょう
名前(〇〇 〇〇)

1 現状
わたしたちが出すプラスチックごみが、海の生き物に大きなえいきょうをあたえていることを知っていますか。日本でも毎日の生活の中で、多くのプラスチックごみが出ています。日本では、2022年に823万トンのプラスチックごみが出ました。そのうち107万トンは回収されず、川や海に流れ出てしまっています。この数字を知って、私はとてもおどろきました。

国	2022年	2021年
日本	823万トン	823万トン
アメリカ	2億9000万トン	2億9000万トン
中国	2億7000万トン	2億7000万トン
インド	1億5000万トン	1億5000万トン
ブラジル	1億2000万トン	1億2000万トン
ドイツ	1億1000万トン	1億1000万トン
フランス	1億1000万トン	1億1000万トン
韓国	1億1000万トン	1億1000万トン
イタリア	1億1000万トン	1億1000万トン
ロシア	1億1000万トン	1億1000万トン
英国	1億1000万トン	1億1000万トン
米国	1億1000万トン	1億1000万トン
中国	1億1000万トン	1億1000万トン
インド	1億1000万トン	1億1000万トン
ブラジル	1億1000万トン	1億1000万トン
ドイツ	1億1000万トン	1億1000万トン
フランス	1億1000万トン	1億1000万トン
韓国	1億1000万トン	1億1000万トン
イタリア	1億1000万トン	1億1000万トン
ロシア	1億1000万トン	1億1000万トン
英国	1億1000万トン	1億1000万トン
米国	1億1000万トン	1億1000万トン

(〇〇より作成)

では、なぜこれほど多くのプラスチックごみが海に流れてしまうのでしょうか。理由の一つは、家庭で分別されないまま捨てられてしまうことです。また、お店や会社から出るプラスチックごみが十分にリサイクルされず、資源として生かされないことも問題です。海に入ったプラスチックは、魚や海鳥がゴミとまちがえて食べてしまい、命を落とすことがあります。こうした理由を知って、「自分もできることがあるはずだ」と感じました。

2 家庭でできる取り組み
そこで、家庭でできる取り組みを紹介します。まず、使い終わった食品トレーやペットボトルは、スーパーやコンビニにある回収ボックスに入れることができます。また、家でゴミを捨てる際には、プラスチックをしっかりと分別してから出すことが大切です。こうした行動が、資源の再利用につながります。

3 まとめ
プラスチックごみを減らすことは、海の生き物や地球のかん境を守ることにつながります。私は、この問題を調べて「小さな行動でも未来を変えることができる」と思いました。ぜひ、わたしたちの家庭でも、できることから始めてみませんか。

資料1 情報を発信する文章のモデル

書き表し方の工夫

- ・ 具体的な数字を示す。
- ・ 現状(事実)理由の順序で書く。
- ・ 家庭でできる取り組みを書く。
- ・ まとめに「やってみよう」と思える内容を書く。
- ・ 事実だけでなく、自分の考えも書く。
- ・ 詳しく書く部分と簡単に書く部分がある。

資料2 書き表し方の工夫に関する気付き

〈自力解決を図る場面〉

まず、食品ロスの現状を分かってもらうために、「年間約500万トン」という事実を書くこと、お家の人に関心をもってもらえよう。でも、「家庭でできる取り組み」はどのくらい詳しく書くことよいか。

お家の人に何を一番伝えたいのかを意識すると、どの部分を詳しく書いて、どの部分を簡単に書くのか決めやすくなりますよ。同じテーマの友達に、どのように書こうとしているのか聞いてみると、ヒントが見つかるかもしれないね。

考えたことが伝わるように書き表し方を工夫するという「言葉による見方・考え方」を働かせるための問い掛け

--- 児童Aは、児童Bと児童Cに相談に行く ---

ぼくは、家族に問題の深刻さを伝えたいから、「食品ロスの現状」について詳しく書こう。その理由については、簡単にまとめれば十分だと思っているよ。

私は、理由が分かれば、読む人が「自分もやってみよう」と考えるようになると思うから、「家庭でできる取り組み」がなぜ必要だと思ったのかを詳しく書こうと思っているよ。数字の説明は、事実として簡単に書けば伝わると思うんだよね。

なるほど。Bさんは問題の深刻さを伝えたいから「食品ロスの現状」を詳しく書いて、Cさんは行動の必要性を伝えたいから考えを詳しくしているのか。どこを詳しくするかは、伝えたいことによって変わるんだな。ぼくは、「食品ロスの現状」を詳しく書いて関心をもってもらう。その理由については簡単にまとめて、自分の考えを書こう。(資料4)

テーマ	食品ロスについて	
現状	日本の食品ロスは年間約500万トン	約1600万人分の1年間の食料に当たる。
理由	家庭での、買いきず、食べ残しが原因	
考え	買いきずや食べ残しが原因だと知って、自分の家でも気を付けたいといけないと思った。	
家庭でできる取り組み	冷蔵庫の中を確認してから買い物に行く。	

資料3 児童Aのワークシート

テーマ	食品ロスについて		
現状	日本の食品ロスは年間約500万トン	約1600万人分の1年間の食料に当たる。	世界では、食べられる食料が13億トンも捨てられている。
理由	家庭での、買いきず、食べ残しが原因		
考え	買いきずや食べ残しが原因だと知って、自分の家でも気を付けたいといけないと思った。	世界の人たちが食べ物に困っているのに、日本ではまだ食べられるものがたくさん捨てられているのは悲しい。	
家庭でできる取り組み	冷蔵庫の中を確認してから買い物に行く。		

資料4 話し合いを受けて整理した児童Aのワークシート

《「言葉による見方・考え方」の確認と活用を促すための振り返りを行う場面 (第5時)》

「言葉による見方・考え方」の確認と活用を促すための振り返りの視点を示すことで、児童は、学習活動を振り返り、見方・考え方を自覚し、次の学習に活用することができるようになります。

〈振り返りを行う場面〉

今日の学習活動を振り返りましょう。振り返りを行うときは、何ができたかだけでなく、どうやったらできたかについて書きましょう。また、それを次の学習にどのように生かしたいかについても書きましょう。

今日の学習では、伝えたいことに合わせて、どこを詳しく書くかを自分で判断することができました。友達のことを聞く中で、詳しく書く部分は自分が伝えたいことによって変わること気が付きました。次の学習では、この書き表し方の工夫を生かして、情報を発信する文章を書きたいです。

今日の学習では、お家の人にどのように伝わるのかを意識して、どこを詳しく書いたり、どこを簡単に書いたりするのかを考えることが大切だと分かりました。ほかの学習でも、情報の整理や書き表し方の工夫を生かして、自分の考えが伝わる文章を書きたいです。